

## 第2章 将来の環境像と基本目標

## 第2章 将来の環境像と基本目標

### 1 大田区が目指す環境像

<大田区が目指す環境像>

#### 環境と生活・産業の好循環を礎とした 持続可能で快適な都市<sup>まち</sup>

大田区はものづくりのまちであり、工業、商業、農業、漁業などの産業が、区民等の生活を支え、豊かな文化を生み出してきました。一方で、区民等の生活と文化が、経済活動と技術を支え、生き生きとした産業のまちを形成してきました。

今日、大田区の産業と区民生活には、歴史、文化に学びながら、より活力ある地域産業の形成と魅力ある地域づくりの実現が不可欠であり、そのための住・工・環の調和と地球環境への配慮が一層求められるようになってきています。

加えて、大田区のものづくりの力を活かした取組みなどにより、国際社会に対しても「国際都市」を目指す大田区ならではの貢献をしていく必要があります。

大田区では、これまでも大田区の共有財産としての「地域力」を活かしながらさまざまな課題を解決し、快適な都市環境の形成を目指した取組みを続けてきました。

しかし、地球温暖化対策や自然との共生をはじめとして環境問題はより複雑化・高度化しつつあるほか、区民等の生活様式や価値観、それに産業を取り巻く社会的な構造は大きく変化してきています。つまり、行政や企業だけが取り組むのではなく、区民等一人ひとりが環境問題に対する意識を高め、生活様式を変革し取組みを推進することが必要です。

このような中で、大田区が抱える環境課題を多様な主体との連携・協働により解決し、快適で安全な暮らしの実現を将来世代にわたって持続していかなければなりません。そのためには、地域力を活かしたこれまでの取組みをより一層進めることに加えて、大田区の産業と区民生活、それに環境がそれぞれ調和して、一方の向上が他方の向上を引き出すような効果的な好循環を伴う地域づくりを目指す必要があります。

これらのことから、大田区が目指すべき環境像として、「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市（まち）」の実現を掲げます。

■□■ 「地域力」・「国際都市」 ～大田区のまちづくりのキーワード～ ■□■

平成 20 年 10 月に策定した大田区基本構想では、20 年後の大田区の将来像として「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を掲げています。

そして、将来像を実現するための基本的な考え方として、「地域力」と「国際都市」の 2 つのキーワードが掲げられました。



この 2 つの考え方は、大田区基本構想に基づく「おおた未来プラン 10 年」を上位の計画とする本計画においても継承されるべきものです。

大田区における「地域力」と「国際都市」は次のように捉えられます。

大田区における「地域力」の基本的な考え方

1. 地域は、そこに住み、働き、学ぶなど、その地域に関わる区民一人ひとりによって構成され、支えられています。また、地域社会においては、人やまちへの思いやりの心と規範意識を持ち、社会的なルールを尊重することが重要です。
2. 暮らしやすいまちの実現には、区民一人ひとりの力が必要であり、この力が地域力の源です。そして、一人ひとりの力を結びつけることで地域力はさらに強くなります。
3. 自治会・町会、事業者、団体・NPO\*、区など、地域を構成する様々な主体が連携・協働することによって、地域力はさらに高まります。
4. 歴史や文化、自然環境、まちなみ、産業など、地域の特徴を活かすことで、魅力ある地域力を創造することができます。
5. 防犯・防災\*、福祉、子育て、教育、環境、産業、国際交流、まちの魅力づくりなど、多様化する地域課題を解決するためには、地域力が大切です。

大田区における「国際都市」の基本的な考え方

1. 区内で暮らし、学び、働く外国人、区を来訪する外国人にとって魅力的なまちであり、日本人が有する「思いやり」「おもてなし」といった精神がまちの表情に現れている都市であること。
2. 多様な歴史、文化を有する外国人が一人ひとりの個性と能力を発揮できているとともに、多彩な交流により地域とつながり、地域の一員として共生が図られている都市であること。
3. 羽田空港が国際化することにより、増加する在住外国人及び外国人観光客が安心して、暮らし、訪れ、回遊できている都市であること。
4. 海外からたくさんの外国人が訪れる区として、大田区平和都市宣言を踏まえ、世界のひとと力を合わせて、大切な平和を守る都市であること。
5. 多彩な連携により地域内産業が国際化を活かしたビジネスを展開し、地域内産業が活性化され、にぎわいある都市であること。

資料：大田区「おおた未来プラン 10 年」（平成 21 年 3 月）

## 2 6つの基本目標

大田区環境基本計画では、将来の環境像を実現するための6つの基本目標を定め、区民等、事業者及び区のパートナーシップのもとで、各基本目標の達成に向けた環境保全の取組みを推進します。

大田区環境基本計画の着実な推進は、大田区基本構想において掲げられる将来像の実現に繋がるものです。

### 6つの基本目標



### 大田区基本構想

＜大田区の将来像＞

『地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた』

## 基本目標 A 環境と産業の調和の実現と好循環の創出

大田区の特徴と言える「ものづくり」を中心に、区内産業では厳しい経営環境が続いており、あるべき姿のためには、操業環境の整備、新たな市場の開拓、技術集積の世界への発信、商店街の賑わい創出などが課題となっています。

産業側から見た環境とは、順守すべきものとの従来の理解から、新たな成長として期待される有望市場との認識が進んできており、大田区産業にとっても環境と産業の調和と好循環の創出に向けた取組みが求められていると言えます。

本基本目標では、住宅や周辺環境と調和した操業環境の実現のほか、エコアクション 21\*等の環境対応基準の導入や事業活動に伴う環境負荷の低減などを通じて環境経営の推進を図ります。また、区内工業の優れた技術や経験をもとに、新たな環境分野の市場への進出や、国際交流・国際貢献の先導的な取組みを展開します。これらの取組みにより、「環境と産業の調和の実現と好循環の創出」を目指します。



優工場には、認定プレート、認定書、認定年度の優工場パンフレット、企業紹介パネル等が贈呈されます。

## 基本目標B 快適で安全な暮らしの実現

かつてのように深刻な公害が社会問題化することは少なくなったとは言え、自動車交通量の多い国道や主要な道路の沿道地域における環境改善や、降雨時の下水越流後の水質汚濁が問題化している呑川の浄化など、これまで以上の取組みを必要とする環境保全上の課題が残されています。また、まちの美化や秩序ある景観の形成とともに、自然災害に強いまちづくりに対する環境面からの貢献についても、快適で安全な暮らしを実現する上で必要な取組みとなっています。

本基本目標では、今後の環境負荷の増大が懸念される沿道環境の保全について対策強化を図るほか、水質浄化対策や有害化学物質対策などの環境保全に係るこれまでの対応を引き続き着実に推進します。また、区内外に誇れる美しいおおたのまちの創造や、自然災害に強いまちづくりに係る環境面の取組みを推進します。

これらの取組みを通じて、「快適で安全な暮らしの実現」を目指します。



大気汚染物質の測定

## 基本目標 C 低炭素社会の構築

大田区の温室効果ガス\*の排出抑制のためには、エネルギー消費が増大し続けてきた家庭部門及び業務部門における対策が重要であり、効果的な対策を展開する上で、住民や事業者にもっと近い立場にある大田区には大きな役割が求められます。

加えて、東日本大震災以降、電力供給に制約があることを強く意識させられることとなり、防災\*の面からもエネルギーに対する考え方を見直す必要に迫られています。

温室効果ガス\*排出量の大幅削減はもとより、次世代のエネルギー社会の創造の面からも、低炭素社会の実現に向けた取組みが急務と言えます。

本基本目標では、省エネルギー型の行動様式への転換、低炭素まちづくり、再生可能エネルギー\*等の導入拡大を図るとともに、地球温暖化対策を促すための主体間連携の強化や新たな仕組みの整備を進め、大田区ならではの「低炭素社会の構築」を目指します。

なお、本分野は「大田区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」としての位置づけであり、平成19年3月に策定した「大田区地球温暖化対策地域推進計画」の改定に当たります。



(左) おおた打ち水大会の様子

(右) 太陽光発電\*システム、壁面緑化\*  
(大森清掃事務所)



## 基本目標D 自然共生社会の構築

大田区には、多摩川や東京湾沿いの干潟などの貴重な自然のほか、区民等と自然との触れ合いや憩いの場である多摩川台公園や田園調布せせらぎ公園、さらには歴史的・文化的資産としての洗足池や旧六郷用水など、多様な自然が残されています。

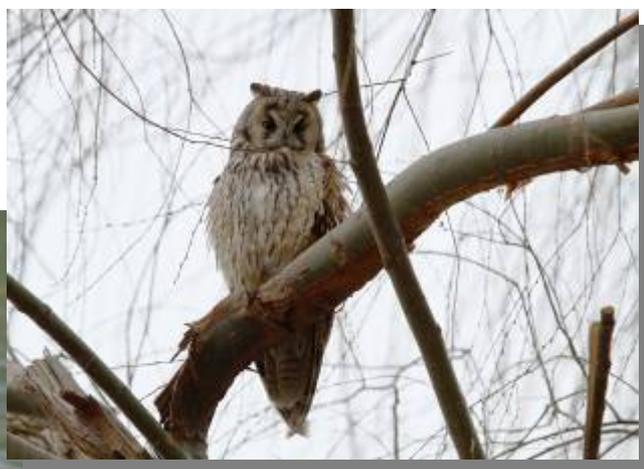
私たちは大田区の自然環境から多くの恵みを享受しており、これを次世代に引き継いでいくためには、自然と人が共に生きる社会、すなわち自然共生社会の構築が必要です。

本基本目標では、生物多様性の社会への浸透、地域による身近な緑の維持管理などを通じた人と自然の関係の再構築のための取組みを展開するとともに、「大田区緑の基本計画（グリーンプランおおた）」（平成23年3月）に基づき、緑の拠点の保全や水の環境軸・緑の環境軸の形成によって水と緑のネットワークの構築を図るとともに、これらの緑地の質の向上と有機的な繋がりによるエコロジカルネットワーク\*の形成を図り、大田区における「自然共生社会の構築」を目指します。

なお、本分野は「大田区生物多様性地域戦略」に位置づけられるものです。



カワセミ（洗足池）



トラフズク（多摩川河川敷）

## 基本目標 E 循環型社会の構築

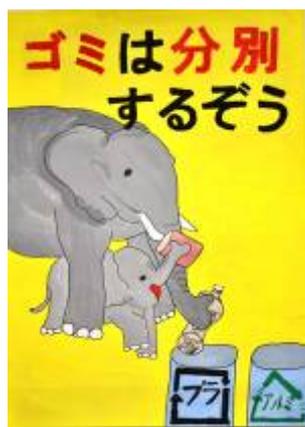
従来の大量生産・大量消費・大量廃棄を伴う経済社会の様式は、多くの資源を消費し、環境に大きな負荷を与えるとともに、最終的に排出される廃棄物の処理においても様々な問題を引き起こします。

そのため、廃棄物の発生ができる限り抑制され、再生利用により資源消費の低減が図られる、循環型社会の構築が求められています。

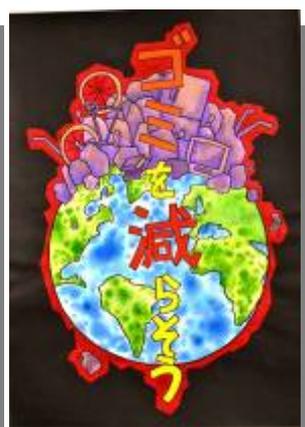
本基本目標では、「大田区一般廃棄物処理基本計画」（平成 23 年 3 月）に基づき、発生抑制や再使用を優先して進めることでごみを出さない生活への転換を図り、きちんと分別された資源が無駄なく再利用される資源循環のまちづくりを進めるとともに、安定的・効率的な清掃事業の構築、事業者処理責任の徹底を図り、「循環型社会の構築」を目指します。



低学年の部 最優秀賞



高学年の部 最優秀賞



中学校の部 最優秀賞

ごみ減量・リサイクルポスター展（平成 23 年度）最優秀賞 作品



(左) 池上小学校における環境学習授業の様子



しげんまもるくん  
(大田区資源循環イメージキャラクター)

## 基本目標F 持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出

近年の環境問題の特徴として、因果関係の複雑化・多様化が進んでおり、行政や一部の関係者だけの取組みによる問題解決は困難となっています。そのため、区民等、事業者及び区がそれぞれの役割を果たすとともに、協働・連携した一体的な取組みへと発展することが求められています。

特に、大田区では「地域力」の活用をまちづくりの基盤に位置づけており、本環境基本計画においても、地域の特徴を活かしながら一人ひとりの結びつきを強めることで創造する「地域力」を発揮した取組みの展開が求められています。

これら各主体の協働・連携や地域力の発揮は、大田区の地域社会や環境を守り育てる様々な活動の基盤となるものです。その取組みが十分でなければ、地域社会はもとより、それによって支えられる大田区の良い環境を将来の区民に引き継いでいくことが困難となると言えます。

本基本目標では、これからの大田区の環境教育を担う環境推進リーダーの育成のほか、環境学習・環境教育により区民等や事業者の環境マインドの底上げを図り、また、多様な主体が参加できるネットワークづくり、学習・情報発信・活動のための基盤づくりを進めるなどして、「持続可能な地域づくりのための学習と参加の場の創出」に取り組めます。

(右) 自然観察会  
(多摩川 大師橋付近の干潟)



エコフェスタワンダーランド

(上) 間伐材を使った工作広場  
(右) コアジサシのモビールの作成

